



梅雨もそろそろ終盤を迎える時期、大垣の蒸し暑さはことのほか体にも辛い感じがします。九州などでは集中豪雨の被害がある一方で、雨を待ち望む地域には梅雨でも雨が降らないという、皮肉な現象も起きていますし、都会のゲリラ豪雨も要注意です。地球上の水の量は太古の昔から全く変わらないそうですが、私たちが使う水の量は、格段に増えています。水の惑星と言われる地球は、水を豊かにたたえています。その総量は約 14 億立方キロメートル、でもそのうちの 97% が海水で、淡水は約 3% しかありません。しかもその中には北極・南極の氷も含まれていますので、私達が見える真水の量はわずか 0.01% に過ぎません。日常生活の中での水の使い方、もう一度見直してみたいですね。

今回は、[まるごと探検隊] 隊員青木佑君の「少年の主張大会」での発表報告、そして名古屋環境大学の受講報告などです。

## 今月のトピックス

### 1【まるごと探検隊】

隊員青木佑君(赤坂小学校 6 年生)が第 29 回大垣市少年の主張大会で発表をしました。ベトナムでの体験や「まるごと探検隊」での 3 年間の隊員活動を通して感じたり考えたりしたことが、しっかりとめられていますので、全文を紹介させていただきます。子どもたちにとって、自然の中での体験はとても大切ですね。また「子どもたちはおとなの背中を見て育つ」と言われるとおり、私たちおとなが子どもたちにどんな姿をみせられるのかは、とても重要なことだと改めて感じました。

#### 『美しい自然を守るために』

#### 赤坂小学校 6 年 青木佑君

皆さんは、大垣や日本の自然について考えたことはありますか、ぼくは、3 年生までの三年間、ベトナムに住んでいました。日本に帰ってきてまず感じたのは、日本とベトナムではずいぶん自然の様子が違うということです。

ベトナムでは、たくさんのバイクがほこりをまいあげて走っています。日本のように寒いと感じる冬はなく、かえって暑いと感じるときの方が多かったです。いくら暑くても川は茶色く濁っていて、入る気にはなれません。でも、ベトナムの人は、その川で魚を捕ったりして生活しています。ベトナムの人にとって、川はとても大切なものなのです。

ぼくは、大垣に帰ってきて、紅葉などの自然の変化がきれいで、近くで鳥の鳴き声も聞くことができ、とても自然が美しいと感じました。そこで、もっと自然や環境について知りたいと思い、大垣市の環境市民会議主催の環境まるごと探検隊に入りました。

環境まるごと探検隊では、水門川の源流から合流点までをサイクリングしたり、牧田川の水質調査をしたりしました。源流では細かった川が、合流地点では広く大きくなって、水鳥がたくさんいました。牧田川の中には、きれいな水であることを示す生き物が多く見つかりました。水門川やそれに合流する牧田川は、自然豊かなきれいな川なんだと実感することができました。

乗鞍青少年自然の家で雪山体験もしました。4 年生の時に行ったときには、乗鞍に着いたときから雪が降っていました。夜も吹雪いていました。雪の断層を観察したり、そり遊びをしたりしました。こん

なににっばいの雪を見たのは初めてだったのでびっくりしました。

ところが、今年の初めに行ったときには、雪があまりありませんでした。今度も雪を楽しもうと思って行ったのに、雪の断層も見られずがっかりしました。地球温暖化が進むようになってしまうのかなと思いました。

探検隊では、ごみ処理場の見学もしました。ペットボトルや布、段ボールなどもごみの中に混じっていました。リサイクルすれば燃やさなくてすむのに、燃やしたら何にもなくなって、おまけにたくさんの二酸化炭素が排出されることになるのになぁと思いました。

処理場の方から、生ゴミが増えて困っているというお話を聞きました。生ゴミは水分を多く含んでいます。だから、生ゴミがたくさん混じっているゴミを燃やすためには、余分に石油を使わなければいけないのだそうです。

環境まるごと探検隊は、傍島さんという方が中心になって指導してくださっています。その傍島さんから、段ボールコンポストについて教えていただきました。これを使えば、生ゴミを燃やさなくてもいいし、肥料もできるので一石二鳥です。

傍島さんは、探検隊を指導するだけではなく、いろいろな場で段ボールコンポストを広める活動もしてみえるそうです。傍島さんのお話を聞いていると、環境に対して、みんなにもっと関心を持ってもらいたいという熱い思いが伝わってきます。

今、エコカーや、太陽光発電などで、地球温暖化を食い止めようとする動きがあります。でも、このようなことだけでは温暖化は阻止できません。傍島さんのように、みんなが、自分の問題として考え、進んで取り組むことが大切なのだと感じました。だから、ぼくも、自分ができるところを考え、実行しています。電気をこまめに消したり、出かけるときには自転車を使うことを心がけています。資源回収も進んで手伝っています。

でも、ほかにもまだ、自分ができることがあるような気がします。これからも環境についてもっと勉強し、自分ができるところを見つけ、実行していきます。そして、この美しい自然を守っていききたいと思います。

### 2 「名古屋環境大学」受講報告

#### 報告事務局奥田

名古屋環境大学で下記の講座を受講しました。とても重要な内容だと感じましたので、皆さんにご報告します。講師は、千葉大学大学院の森千里教授です。(明治の文豪で医者でもあった、森鷗外の曾孫に当たられます。)

私たちの暮らしには、数え切れない数と量の化学物質が入り込んでいます。それは周知の事実ではあっても、目に見えず入り込むルートもわからないために、化学物質の存在を実際にとらえ感じることは難しいことです。何年前かに、環境ホルモンの危険性が指摘され、「奪われし未来」や「沈黙の春」といった書物も多くの方が手に取った歴史があります。しかし、化学物質とヒトの健康との因果関係が科学的データで示されることがなかったために、いつの間にか私たちの関心事から遠のいたように感じます。

森先生と研究チームは、へその緒や私たちの血液検査のデータで研究を進めて、化学物質が母体を通して胎児に引き継がれていく事実を突き止めました。先生は、今の私たちの健康ももちろん大切だが、100年後の世代の健康をどう守るか、そこに基準を置いた予防医学の重要性を指摘されています。ケミレス社会、化学物質を削減した社会づくりを提案されています。

### 講座名「化学物質のヒトへの影響」ダイジェスト 講師:森千里先生

健康は、内因(本人の素因)・外因(環境条件)・行動(生活習慣)によって成立している。健康を保つためには、「知る」・「関心を持つ」・「行動する」という3点が重要なポイントとなる。現代、合成有機化合物の生産量は、増加の一途をたどっており、私たちの生活の中にも避けがたく入り込んでいる。化学物質の人体への影響は、その質(危険度の強さ)と量の両面から考慮する必要がある。また、その個人の感受性の問題もある。内分泌攪乱物質(環境ホルモン)が野生生物に様々な影響を及ぼしていることが報告されている。ヒトへの影響としては、精子数の減少・尿道下裂等の先天異常の増加・精巣がん、乳がんの増加・アレルギー・IQの低下・多動・知能精神発達の遅れ等々が疑われている。日本人胎児へのその緒からの化学物質の検出率は、ダイオキシン類、PCB類、DDT、DDE等、100%であり、汚染されていない人がいない、というのが現実である。濃度データ研究によれば、出産時の母親の年齢が高くなるにつれて、へその緒に残留している化学物質の濃度は高い。胎児期に受けた環境影響が、出生後、さらに成人後の疾患の原因になっている可能性がある。また、その影響は、突然変異ではなく、次世代へと引き継がれる可能性も指摘されている。このようなことから、胎児を基準とした、未来世代のための予防医学的対応が望まれる。生殖年齢にある若い世代が、血液検査によって自分の汚染度を知り、生活習慣の改善によって体内濃度を下げることで、将来世代が健康に暮らせるようにしたい。

まとめ 講義の骨子部分をまとめました。私達が既に体にとりこんでしまった化学物質の影響を少しでも薄くするためには、運動をして汗をかくこと、食物繊維をたくさんとること、また、バランスのよい食生活を心がけることも重要だそうです。もっと深く知りたい方は、森先生の著書『胎児の複合汚染』へその緒が語る体内汚染』をお読みください。また、下記のホームページで、ケミレス必要度テストができるそうです。お試しください。 <http://chemless.hp.infoseek.co.jp/>

### 3 暮らしエコプロジェクト

6月18日(木)に、[暮らしエコプロジェクト]が大垣市クリーンセンターの施設見学  
(クリーンセンター所長窪田一仁さん・資源対策課課長大山さんのお話)

6月29日(月)上勝町の『ゼロウェイスト』学習会に参加

7月9日(木)プロジェクト会議

クリーンセンターでの学習を通して、ゴミステーションで収集される可燃ごみは、まだ減らせる余地があることがわかりました。資源対策課とも連携しながら、市民にごみ減量を呼びかける活動を進めていきたいと考えています。

### 4 水門川いきいきプロジェクト

#### 興文小学校で環境学習

6月17日(水) 4年生の児童106名が参加。校区内の水門川で水質や透明度を調査し、きれいな川を守る学習をしました。水門川いきいきプロジェクトの伊藤允人さん・近藤康夫さん・環境まなび合い塾から佐々木愛子さんが参加。



### 5 ダンボールコンポスト活動報告

#### (ダンボールコンポストの環・交流会～拡めたい人のための学習会)

平成21年7月4日(土) 大垣市情報工房5階セミナー室

参加者:70名 市内14名・県内(個人9名 団体所属16名)・県外(6団体から12名)

平成19年2月にたった3個、この大垣の町にやってきたダンボールコンポストが、わずか2年の間に5,100個の基材を送るまでになりました。市内はもちろんですが、市外・県外にも実践者が拡大していて、それぞれの地域で拡げたいと考える市民活動グループが出てきています。そこで、そういう地域から、市民活動グループや行政の皆さんにご参加いただき、交流会を開催しました。ダンボールコンポストの開発団体である循環生活研究所から講師を招き、堆肥化の普及活動や菜園講座、子どもたちへの環境学習など、幅広い活動の発表をいただきました。その後、各地域から参加した皆さんとの活発な意見交流があり、ダンボールコンポストを素材として循環生活の環が拡がりつつあることを実感しました。



お知らせ……是非ご参加ください。

#### 第8回水門川クリーン作戦

#### &川底学習会

日時: 7月25日(土)8:30~10:00 予備日7月26日(日)少雨決行

集合場所: 八幡神社前橋上広場に8:00までに集合

清掃場所: 貴船神社から八幡神社前橋上広場まで

主催: 水門川クリーン作戦実行委員会

大垣市環境市民会議NEWS第25号

発行日平成21年7月13日

編集者 環境市民会議事務局 発行者 大垣市環境市民会議会長成田幸範

所在地 エコステージおおがき 〒503-0911 大垣市室本町3丁目4番地

T E L (0584) 82 1761 FAX (0584) 47 5422

Mail : eco\_sta@smile.ocn.ne.jp [http://www15.ocn.ne.jp/~eco\\_sta/index.htm](http://www15.ocn.ne.jp/~eco_sta/index.htm)